

様式1【環境目標(数値目標)の設定】(指針第2項～第6項)

【必ず1つ以上の目標を設定】

<p><環境目標などの設定手順></p> <p>① 「環境目標・取組内容」のリストを確認し、使用状況などを考慮して環境目標に選択するもの1つ以上に○をつける。</p> <p>② ①の取組内容として選択するものにチェック印をつける。独自の取組内容を設定する場合は、その内容を記載する。</p> <p>③ 本業その他に関する環境に配慮した取組について、独自の数値目標を設定する場合は、その内容を「4」に記入する。(様式2の選択肢として掲げられている項目であっても、目標を数値化できる場合は様式1に記入してください。)</p> <p>④ 選択した環境目標の基準年度の数量(基準値)を把握し、数値目標を決める。 (備考)欄外の※印は法令で定められた義務的事項なので必ず確認し、該当する場合は確実に実行してください。</p>

1 「ゼロカーボンシティかごしま」に向けた取組

選択欄	環境目標・取組内容
	【環境目標】 電気使用量の削減
	照明の使用後や不必要なところの消灯、照明の間引き、昼光の利用を実施する。
	照明スイッチの適正配置、スイッチ対応図の掲示を積極的に行う。
	LED照明、高効率蛍光灯、人感センサーなどの機器の導入を図る。
	エアコンの稼働時間や区画を限定し、適正な温度設定にする。(室温の目安は冷房時28℃、暖房時20℃を推奨)
	業務用のエアコン、冷凍機等の簡易点検を実施する。(フロン排出抑制法の義務あり) ※
	冷房時のノーネクタイや軽装、暖房時の重ね着の励行など、クールビズやウォームビズを実施する。
	ブラインド、よしず、カーテン等を活用し、冷暖房効果を高める。
	省エネルギー型の空調、デマンド監視装置、遮熱フィルム、二重窓、屋根の遮熱塗装などを導入する。
	OA機器、電子機械、設備などを使用しないときは、こまめに電源を切る。
	太陽光発電システムの導入や太陽熱・地中熱などの自然エネルギーを活用する。
	エレベーターの適正運転や利用者への適正使用の周知・実践を行う。
	作業工程の見直しや効率的な作業による省エネルギーに努める。
	(独自取組の記入欄)
	【環境目標】 燃料使用量の削減または車両の燃費の向上
	急発進・急加速や空ぶかしの防止、駐車中のエンジン停止など、エコドライブの実践を徹底する。 § エコドライブ10のすすめ(エコドライブ普及推進協議会)参照
	エコドライブに関する講習を受講する。
	近い場所への移動は、徒歩、自転車で行い、自動車の代わりに公共交通機関を積極的に利用する。
	社用車の燃費を把握する。事業用トラックについては運行記録計を装着し、時間・距離・速度の適切な運行管理を行う(貨物自動車運送事業輸送安全規則による義務あり)。 ※
	電動車(電気自動車、燃料電池自動車、ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車)、クリーンディーゼル自動車、天然ガス自動車の導入に取り組む。
	社用車の車両削減、カーシェアリングの導入を行う。
	積載量の管理や共同輸配送、帰り荷の確保に取り組む。
	他社との共同輸配送、モーダルシフト(幹線貨物輸送をトラックから鉄道や海運に転換する)、適正な配送ルートの設定など効率的な輸送を実施する。
	置き配、宅配ボックスなど宅配便の再配達防止の取組を行う。
	WEB会議システムやテレワークの活用により、人の移動を抑制する。
	(独自取組の記入欄)

2 循環型社会の実現に向けた取組

選択欄	環境目標・取組内容
	【環境目標】 紙使用量の削減
	会議資料や事務手続き書類の簡素化に取り組む。
	電子決裁、共有フォルダ、WEB会議システム等の利用によるペーパーレス化を推進する。
	資料の両面印刷、両面コピーを徹底する。
	使用済み用紙の裏紙利用を徹底する。
	ミスコピーの削減と効率的な資料作成に努める(コピー後の設定のリセットの徹底、Nアップ機能の使用など)。
	(独自取組の記入欄)

【環境目標】 廃棄物の排出削減、リサイクル、適正処理	
	分別ボックスの適正配置などにより、ごみの分別を徹底する。
	使い捨て製品（割りばし、紙コップ、プラスチック製のスプーン等）の使用や購入を抑制する。
	コピー機やプリンターの使用済みトナーカートリッジの回収とリサイクルを行う。
	再使用またはリサイクルしやすい製品、詰め替え式容器またはリターナブル容器入りの製品を優先的に購入する。
	産業廃棄物管理票（マニフェスト）による廃棄物の適正な処理を行い、毎年、産業廃棄物管理票交付状況等報告書を提出する（廃棄物処理法の義務あり）。
	食べ残し、残飯等の生ごみ、生産工程から発生する有機物系の廃棄物については可能な限り飼料化・堆肥化し、ごみの減量化、資源化を図る。
	仕入計画の管理や見直しを徹底し、余剰品の削減に取り組む。
	包装、梱包、段ボール等の削減・再使用に取り組む、納入業者には梱包材の持ち帰りを要請する。
	簡易包装の推進や多重包装の見直しに努める。
	通い箱（繰り返し使用する梱包材）を利用する。
	シュレッダーの使用を機密文書等に限る。
	廃食用油の回収（バイオディーゼル燃料にリサイクル）に協力する。
	製造工程で発生する廃棄物、不良品等の発生抑制に取り組む。
	（独自取組の記入欄）

※

3 身近な生活環境の保全に向けた取組

選択欄	環境目標・取組内容
	【環境目標】 水使用量の削減、水循環の確保
	水を流しっ放しにしない、水流を必要最小限にする等、各自が節水を日常的に励行する。
	節水型の水洗トイレや電化製品、自動水栓等を積極的に導入する。
	節水こまの設置や「節水」等の標識による意識啓発を行う。
	トイレに「流水音発生器」を設置し、トイレ用水を節約する。
	洗車時はバケツを利用し、汚水はできるだけ側溝に流さない。
	雨水の貯留タンクや利用施設を設置し、積極的に雨水利用を行う。
	雨水をできるだけ地下浸透させるために、浸透升等の導入や透水性舗装等を行う。
	（独自取組の記入欄）

4 本業に関連する取組、その他環境に配慮した活動

選択欄	環境目標 （独自に数値目標に設定する項目の記入欄）

【数値目標の設定】

目標	具体的な内容	基準年度 (基準とする期間)	基準値	数値目標		
				1年目	2年目	3年目
		年 月 ～ 年 月				

1 「具体的な内容」には、基準値の説明を記入する。（例：ガソリン使用量、産業廃棄物のリサイクル率など）

2 基準値は基準とする期間内の使用量等を、数値目標は各年に達成しようとする目標値を記入する。

（例：〇%削減、〇kWh、〇kg削減、〇km/L向上など）

様式2 【環境目標(点数目標)の設定と評価・見直し】(指針第2項～第6項、第8項～第11項)

【更新の場合は、必ず1つ以上の目標を設定】

＜目標等の設定、評価手順＞

- ① 「環境目標・取組内容」のリストを確認し、事業内容・取組状況などを考慮して環境目標に選択するものに○をつける。
- ② 選択した環境目標について、取組内容に選択するものにチェック✓印をつけ、「現状の把握」欄に現在の自己評価をつける。
【◎:十分取り組んでいる(3点)、○:ある程度取り組んでいる(2点)、△:あまり取り組んでいない(1点)、×:全く取り組んでいない(0点)】
- ③ 自己評価の合計を基準とし(基準点数)、評価点数の向上に取り組む。
- ④ 取り組んだ内容を随時記録するとともに、毎年度、取組を評価し、評価点数が基準点数より増減したところを中心に、理由や見直し等を記入する。
- ⑤ 独自の目標を設定する場合(任意)は、その内容を「環境目標・取組内容」欄に記入し、毎年度、評価・見直し等を行う。
(備考)欄外の※印は法令で定められた義務的事項なので必ず確認し、該当する場合は確実に実行してください。

＜独自目標の設定＞

環境目標・取組内容	取組の記録、評価・見直し

1 環境経営に向けた取組

環境目標・取組内容		現状の把握	取組の評価	取組の記録、評価・見直し
【環境目標】製品の開発・設計等における環境配慮、環境配慮製品の販売・提案		基準点数	評価点数	
		0	0	
	環境配慮商品の販売目標を定め、販売促進に積極的に取り組む。			(記入欄)
	環境配慮型の製品、設計、工法等の提案を積極的に行う。			
	再生資源を使用した商品、再生可能な商品、繰り返し使える商品、容器包装を簡素化した商品、エコマーク製品等を重点的に販売する。			
	省資源、省エネ、環境保全につながる技術や商品(リサイクルしやすい素材の使用や製品の部品数の削減、解体しやすい構造)を開発する。			
	製品の製造過程でのエネルギーの削減に取り組む。			
	販売した製品の使用後の回収・リサイクルに取り組む。			
	消費者等に環境保全型商品に関する情報を積極的に発信・提供する。			
	消耗品の回収箱等を店頭を設置する等、その回収・リサイクルに取り組む。			
	開発する技術や製品が環境に与える影響の評価を行う。			
	投資・融資にあたり、環境面からの審査を行う。			
	(独自取組の記入欄)			
【環境目標】グリーン購入(環境に配慮した製品の購入)		基準点数	評価点数	取組の記録、評価・見直し
		0	0	
	環境配慮商品や再生製品の優先的な購入、転換を進める(例:グリーン購入法適合商品、エコマーク、統一省エネラベル、グリーンマークなど)			(記入欄)
	コピー用紙、印刷物・パンフレット、名刺、その他の紙について、再生紙または未利用繊維への転換を進める。			
	間伐材、未利用資源等を利用した製品を積極的に使用する。			
	修理や部品交換が可能で、部品の再利用、素材の再生利用が容易な設計の製品を優先的に購入、使用する。			
	(独自取組の記入欄)			

【環境目標】設備の導入・管理		基準点数	評価点数	取組の記録、評価・見直し
		0	0	
	機器・設備の更新時に、省エネルギー性能の高い製品を選択する。			(記入欄)
	天然ガス等の環境負荷の少ない燃料を優先的に使用する。			
	二重窓、複層ガラスの設置等により建物の断熱性能を向上する。			
	太陽熱利用システムを導入し、給湯、暖房に利用する。			
	給湯設備において、配管等の断熱化により省エネルギーを進める。			
	エレベーターの省エネシステム(運転の高度制御、夜間等の部分的停止など)を導入する。			
	ボイラー等の廃熱の利用を行う。			
	インバータ等によるモータの回転数制御を実施する。			
	風力発電、水力発電、地熱発電等の再生可能エネルギーを導入する。			
	(独自取組の記入欄)			
【環境目標】建築物の建築・解体、開発事業にあたっての環境配慮		基準点数	評価点数	取組の記録、評価・見直し
		0	0	
	建築物等の解体前にアスベスト含有の有無を調査する。			(記入欄)
	粉じんやアスベストの飛散防止等に取り組み、周辺環境に配慮する。			
	建築物の建築・改築や開発にあたり、環境負荷の少ない建築材の使用、環境に配慮した工法などに取り組む。			
	河川工事や建設工事の際に発生する濁水による水質汚濁の防止に取り組む。			
	低騒音型の建設機械の使用等により、工事の騒音・振動の防止に取り組む。			
	工事現場に出入りする車両の排ガス・騒音・振動の防止に取り組む。			
	木材、コンクリート塊、汚泥、残土等の建設副産物の削減、再利用、分別、リサイクルに取り組む。			
	発注者及び設計者に対し、建設副産物のリサイクル、合板型枠の使用合理化など環境保全につながる提案をする。			
	(独自取組の記入欄)			
【環境目標】環境教育、危機管理、情報提供等		基準点数	評価点数	取組の記録、評価・見直し
		0	0	
	事故や災害の際の汚染防止対策のための準備(危機管理マニュアルの作成や訓練、資材の確保等)を行う。			(記入欄)
	環境保全上、必要な作業手順や運用基準等を明確に定め、必要に応じて改訂する。			
	環境に関するセミナーや講習会に積極的に参加する。			
	通勤・外勤等における自転車・公共交通機関の利用やパークアンドライドを推進する。			
	組織内において、環境対応のための役割分担や責任、権限などを明確に定める。			
	職員等が環境保全について必要な資格、能力等を保有できるよう支援する。			
	委託先や協力会社などの職員等についても、必要な意識、能力等を保有するよう対応する。			
	顧客や発注者に対し、環境保全の提案をしている。			
	ISO14001、ISO50001、エコアクション21、KESの取得に向けて取り組む。			
	(独自取組の記入欄)			

2 自然との共生に向けた取り組み

環境目標・取組内容		現状の把握	取組の評価	取組の記録、評価・見直し
【環境目標】生物多様性への配慮		基準点数	評価点数	
		0	0	
	屋上緑化や壁面緑化、緑のカーテンに取り組む。			(記入欄)
	外来種の駆除活動に参加する。			
	事業所周辺の環境や生き物の保全活動(生息地の整備等)を通し、事業活動を行う地域への配慮を行う。			
	原材料の生産や採掘が、現地の生物多様性に悪影響を与えるものではないか等についての情報を得る。			
	調達する原材料について、認証品(森林認証、漁業認証等)を活用する。			
	地域の野生生物保護活動への参加や支援を行う。			
	クレジットの購入によるカーボン・オフセットを通して、森林整備などに貢献する。			
	(独自取組の記入欄)			

3 その他環境に配慮した活動

環境目標・取組内容		現状の把握	取組の評価	取組の記録、評価・見直し
【環境目標】化学物質の管理の徹底		基準点数	評価点数	
		0	0	
	有害のおそれのある化学物質について、その種類、使用量、保管量、使用方法、保管場所等を把握し、記録する。			(記入欄)
	PRTR制度(化学物質排出移動量届出制度)に基づいて、化学物質の排出量の把握や管理に取り組む。			
	有害性の高い化学物質の環境への排出量の測定、推定等を行う。			
	塩素系有機溶剤等の削減や代替物質への転換、燃料油や溶剤等の揮発の防止に取り組む。			
	使用した化学物質を回収するシステムを使用し、その維持管理を徹底する。			
	有害物質の輸送、使用、保管等にあたって、マニュアルの作成や事故時の汚染防止のための準備を行い、適宜見直す。			
	化学物質の安全性に関する情報伝達のため、SDS(安全データシート)の使用を徹底する。			
	有害物質のタンク、パイプ類からの漏えい、拡散などを防止できる構造となっており、定期的に点検する。			
	オゾン層の破壊、地球温暖化の要因となっているフロン類の回収・適正処理に取り組む。			
	温室効果ガス(HFC、PFC、SF ₆ 、NF ₃)の排出抑制のために、製品選択時の配慮、代替物質への転換、回収処理等に取り組む。			
	(独自取組の記入欄)			
【環境目標】地域の清掃活動等		基準点数	評価点数	取組の記録、評価・見直し
		0	0	
	事業所の周辺や道路などを定期的に清掃する。			(記入欄)
	河川や海岸、公園など身近な公共の場を定期的に清掃する。			
	地域のボランティア活動等に積極的に参加・協力し、支援を行う。			
	(独自取組の記入欄)			

※

様式3【記録と評価・見直し(数値目標)】(指針第8項～第11項)

目標・内容		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
【環境目標】 【具体的な内容】 【数値目標】	基準値	年度													
	数値目標	月毎													
		累計													
	実績	年度													
		累計													
	目標達成状況の評価														
取組の記録 原因と対策など												(代表者による1年間の評価・見直し)			
【環境目標】 【具体的な内容】 【数値目標】	基準値	年度													
	数値目標	月毎													
		累計													
	実績	年度													
		累計													
	目標達成状況の評価														
取組の記録 原因と対策など												(代表者による1年間の評価・見直し)			

(備考)

- 1 数値目標を掲げた項目の毎月の取組実績を記入する。
- 2 「目標達成状況の評価」の欄は、目標の達成状況に応じて、○(達成)、×(非達成)を記入する。
- 3 「取組の記録」の欄は、その期間に取り組んだこと、目標非達成の場合の原因など特筆すべきことを記録し、年度終了後、代表者による1年間の評価と見直しを記入する。
- 4 様式3は数値の入力がしやすいよう適宜変更したり、必要事項を含んだ任意の様式でも構いません。